

乳癌化学療法レジメン別にみた頭髪の長期的回復

- 全国アンケート調査から

DP-2-71-05

矢形 寛¹、渡辺 隆紀²、岡田 宏子³、齋藤 光江⁴、高山 智子⁵、三階 貴史⁶、吉村 章代⁷、長谷川 善枝⁸、土井 卓子⁹、下妻 晃二郎¹⁰

¹埼玉医科大学 総合医療センター プレストケア科、²仙台医療センター 乳腺外科、³東京大学 医学系研究科、⁴順天堂大学 乳腺内分泌外科、⁵国立がん研究センター がん対策情報センター、⁶千葉大学附属病院 臓器制御外科、⁷愛知県がんセンター中央病院 乳腺科、⁸弘前市立病院 乳腺外科、⁹湘南記念病院 かまくら乳がんセンター、¹⁰立命館大学 生命科学部 生命医科学科

背景

化学療法による外見の変化は、患者を悩ませる主要な副作用である。我々は化学療法における外見の変化とそのサポートの現状を明らかにするため、化学療法を受けた乳癌患者を対象とした全国アンケート調査を行った。その中で化学療法終了後の長期的な頭髪の変化に注目し、化学療法レジメン別の回復度を検討した。

対象と方法

オリジナル質問紙を国内医療施設へ発送(2013年4-10月)

質問内容:

化学療法に関連する患者のアピランス (頭髪, 眉毛, 睫毛, 爪, 皮膚) アピランスに対するサポートの現状

化学療法レジメン
内分泌療法の種類
化学療法終了後からの期間

医師から外来受診患者への質問紙配布および患者からデータセンターへの郵送

適格条件:

乳癌の既往があり、現在無再発である
術前または術後化学療法を5年以内に完遂している
現在の年齢が20-65歳
化学療法レジメン
アンストラサイクリン+シクロfosファミド(AC)
3週毎のドセタキセル(DOC)
毎週のパクリタキセル(P)
または、上記の組み合わせ
最後に化学療法を受けてから5年以内

化学療法終了からの期間毎に頭髪の状態を横断的に解析

化学療法終了から3年以降の頭髪の回復度を化学療法レジメン別に評価

3年以降の頭髪の回復度について、多項ロジスティック回帰分析にて補正
従属変数=頭髪量(8割以下 / 8割以上の回復)
説明変数
主効果=化学療法レジメン
調整変数=年齢(50歳未満 / 50歳以上),
内分泌療法(AI剤 / AI剤以外 / 使用なし)

結果

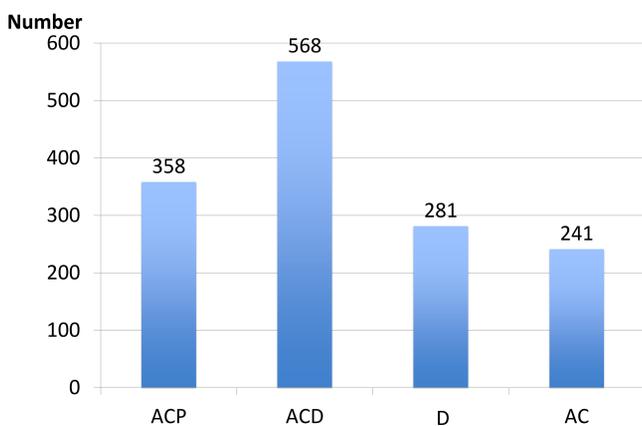
47病院1511名の患者から質問紙を回収(回収率82%; 1511/1853)

除外

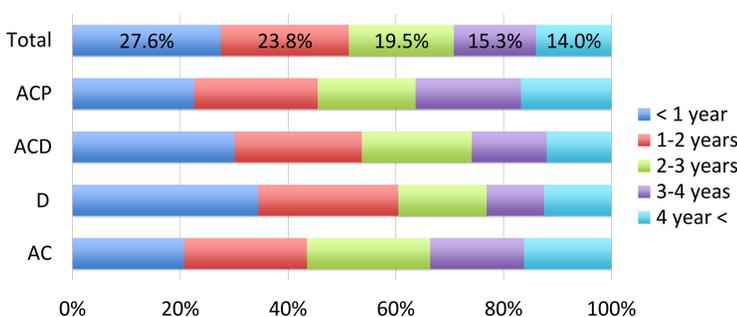
33名... 化学療法終了後5年以上など
30名... Pのみ17名, P+D1名, AC+P+D12名

1448名からの質問紙を解析

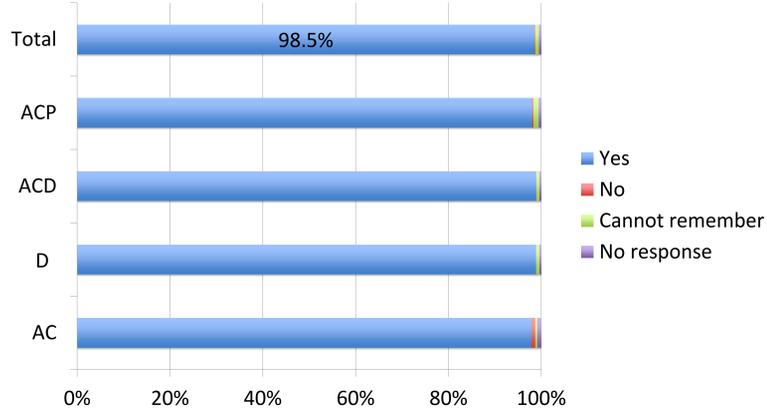
各化学療法レジメンの患者数



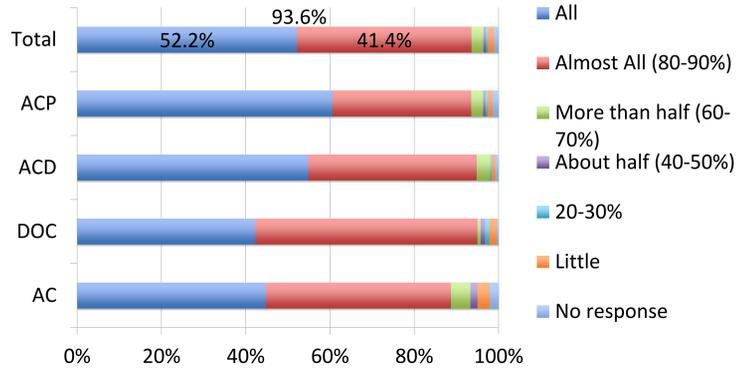
化学療法終了からの期間



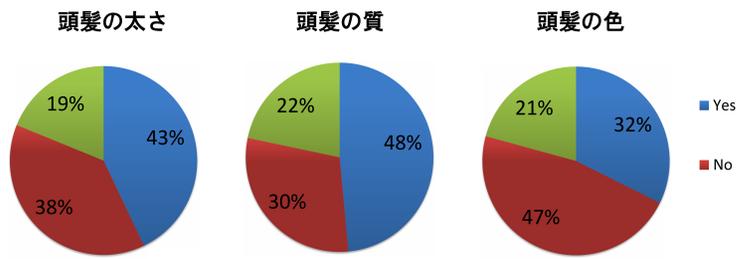
化学療法中の脱毛の割合



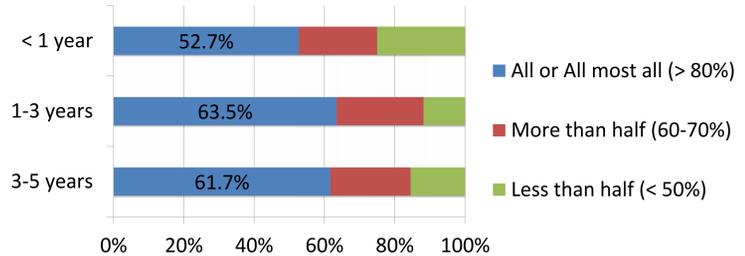
化学療法中の脱毛の程度



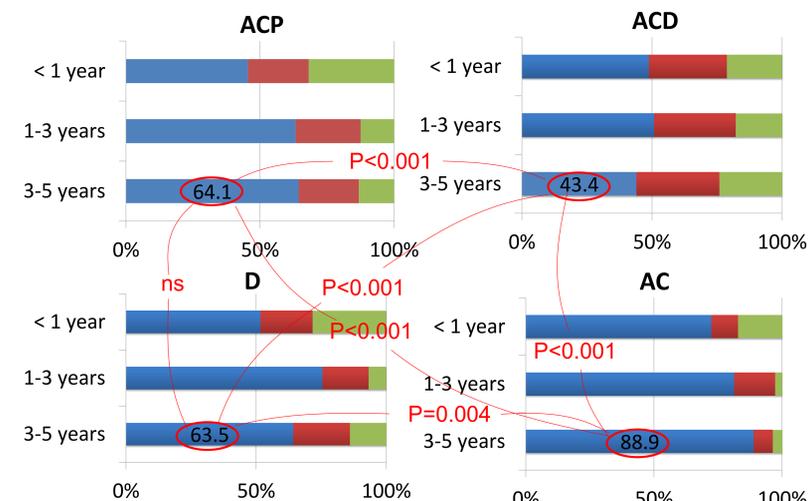
発毛開始から6ヶ月後の頭髪の変化



頭髪の回復度(回答なしまたは該当せずを除外)



化学療法レジメン別の頭髪の回復度(回答なしまたは該当せずを除外)



3年以降で80%以上回復した割合は、
AC 88.9% > AC+P 64.1% > D 63.5% > AC+D 43.4%であった。
年齢と内分泌療法で補正してもレジメン間で有意差が認められた。
AC > AC+P, AC > AC+D, D > AC-D, AC+P > AC-D P < 0.001
AC > D P = 0.004
AC+P > D ns

結論

化学療法を受けた乳癌患者の一定数で長期的にも頭髪量の十分な回復がみられず、タキサン系、特にドセタキセルを含む回復度がより低い傾向にあった。化学療法による頭髪への影響は一時的なものとは限らず、医療者は適切な情報提供と長期的に渡るサポートを考えていく必要がある。

この研究は公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンターのヘルスアウトカム支援事業(CSP-HOR)の一環として実施された

POSTER DISCUSSION or POSTER
筆頭演者の利益相反状態の開示

すべての項目に該当なし